

稲・大豆作情報 (NO. 3)

1. 水稲作況情報田の生育概況(7月14日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/15 17.5株/m ²	本 年	50.8	276	8.7	44.9	6月6半旬以降、平年より気温は低く、日照時間も短く推移している。そのため、分けつの発生が遅れている。今後は、有効茎の確保のための水管理が肝心。
		平 年	45.8	290	9.0	39.6	
		平年比	(111)	(95)	(-0.3)	(113)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 16.1株/m ²	本 年	36.0	177	7.9	39.8	※一部、「さがびより」「ヒヨクモチ」でガス湧き・スクミリンゴガイの被害あり
		平 年	42.9	335	9.2	40.9	
		平年比	(84)	(53)	(-1.3)	(97)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	7/1 18.5株/m ²	本 年	22.8	74	5.9	—	
		平 年	29.5	213	8.1	—	
		平年比	(77)	(35)	(-2.2)	—	

注1) 各品種 前作：麦

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

活着遅れや雨天が続いたことにより、分けつの発生が遅れている。圃場管理を徹底し、有効茎の確保を行う。

○今週の管理

- 生育は全品種遅れており、中晩生品種の遅れは著しい。今後は深水を避け、浅水管理・間断灌水を徹底し、分けつ促進を第一に管理する。
- 水位調整が不十分な圃場が散見される。
 - ◆ガス湧きによる生育ムラや生育不良部の黄化（左下写真）
⇒ 早急に落水し、落水→浅水の継続とともにガスの有無を定期的を確認
 - ◆スクミリンゴガイによる食害（右下写真）
⇒ 浅水にして貝の活動抑制を行うと共に薬剤防除



▲ガス湧きによる生育不良



▲スクミリンゴガイによる食害

- 分けつ確保が遅れているが、有効茎が確保できている圃場では、中干しを開始する（目安は右表を参考）。中干しは、軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度で、1週間程度実施する。

品 種	目 標 穂数 本/m ²	有効茎数（中干し時期）	
		50 株/坪 (15.2 本/m ²)	60 株/坪 (18.2 本/m ²)
夢しずく	360	24 本/株	20 本/株
さがびより	370	25 本/株	21 本/株
ヒヨクモチ	440	29 本/株	24 本/株

○除草剤 ～取りこぼし雑草に注意～

- ・中後期除草剤による早めの対策を講じる。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー 1 ㌦粒剤	移植後 7 日～ル [♂] I 4L 但し、収穫 30 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	クリンチャー EW	移植後 20 日～ル [♂] I 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン 1 ㌦粒剤	移植後 15 日～ル [♂] I 4L 但し、収穫 45 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 60 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 50 日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15 日～ル [♂] I 5L 但し収穫 50 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。（展着剤無加用）
	ハイカット 1 ㌦粒剤	移植後 15 日～ル [♂] I 3.5L 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	フォローアップ 1 ㌦粒剤	移植後 15 日～ル [♂] I 5L （稲 4 葉期以降） 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～5 日は湛水）
	ワイドアタック SC	移植後 20 日～ル [♂] I 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。（展着剤無加用）

○病害虫情報(発生および防除)

- ・今年のトビイロウンカは、現在のところ 6 月 11 日（少）と 6 月 27 日（多）に飛来が確認されているが、7/3～13 の断続的な降雨があった期間にもウンカの飛来が予想される（現在、発生予測が示されている飛来波は 6/11・6/27 のみ）。そのため、防除は発生予測を参考に行う。（7/13 週中に最新発生予測パターンが示される予定）

農技防 HP 参照：病害虫情報

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

暫定防除時期（7/14 現在）

6/11 飛来中心 7/15～7/18

6/27 飛来中心 8/11～8/16

第一世代幼虫は両飛来波とも移植後 1 ヶ月の時期であり、箱施薬剤を施用していれば、定着数はかなり少ないと考えられる。ただし、6/27 飛来波は比較的多かったため、第一世代幼虫での防除（7/13～26）の必要性は、現場での発生状況を確認し、判断することが望ましい。また発生状況は作付品種及び移植時期で異なることがあるため、注意する。



※発生予測第 2 版（7/6 発表）

- 雨天が続き、気温・湿度とも“いもち病菌”の好適条件が継続している。葉に病斑（下写真）がみられる場合は、早急に薬剤防除を行う（オリゼメート粒剤など）。



▲いもち病（農業技術防除センターより）

3. 大豆管理

気象状況に留意しながら、圃場条件が整い次第、速やかに播種作業に移れるように準備を行いましょう。

○耕起

- 荒起は圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。

○播種

•種子消毒

種子消毒剤（キヒゲン）は紫斑病やその他雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上などの効果がある。播種が遅くなると、種子の活力低下や高温障害によって、土壌中で種子が腐敗しやすく、発芽率も劣ってくるため、キヒゲン等の種子粉衣は確実に行う。

•播種量

茎立数確保のため、一応以下の播種量を示すが、昨年の大豆作は大雨・台風被害により不作であり、採種現場でも収穫量は少なかった。種子大豆の在庫も限りがあるため、今年においては手に入る種子により、播種量を調整する必要がある。

時期	栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間×株間×1 株本数	播種量 (kg/10a)	施肥
7月16日～20日	13本	75 × 20 × 2	4.0	-
7月21日～25日	18本 20本	75 × 15 × 2 3条播き 20 × 2	5.3 6.0	BB480 を 40kg/10a (生育量確保のため行う)
7月26日～	27本	75 × 11 × 2	8.0	

•播種深度

播種後2～3日以内に降雨が予想される時や、土壤水分が多い場合→2cm程度の浅め 鎮圧はしない
播種後1週間以上好天が予想される時や、土壤が乾燥気味の場合→4cm程度の深め かつ 鎮圧する。

•除草剤

播種前)「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺
水稻へ影響が大きいため（場合によっては枯死まで至る）、必ず避ける。

令和2年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

